

工業デザイナー奥山清行氏・ 森雅志富山市長とのBIG対談



北陸新幹線が拓く富山の新時代

2014年2月27日(木) 14時半～16時半(開場14時15分)

会場 WATERRAS COMMON 3F COMMON HALL

■基調講演

- ① 森雅志 富山市長 「富山が目指すコンパクトシティ」
- ② 奥山清行 氏 「北陸新幹線のデザインコンセプト」

■対談 「北陸新幹線が拓く富山の新時代」

森雅志 富山市長

奥山清行 氏

コーディネーター 関幸子 東洋大学客員教授／富山市政策参与

平成26年度に北陸新幹線が開業すると、東京富山間は一気に1時間40分短縮され、東京からも近い地域として注目を集めることとなります。

ここ数年、富山市は、コンパクトシティを標榜し、LRTを導入して中心市街地への機能の集積と交通アクセスの向上を図ってきました。こうした「富山CITY」としての魅力とともに、3000mの高さを誇る霊山「立山」、雄大な水をたたえる黒部ダム、世界遺産に登録された五箇山など豊かな自然に恵まれ、水の清らかさから酒や寒ブリなど「食の富山」としても地域観光資源を保有してきました。ここ3年間は旅雑誌を中心に富山の魅力を全国にアピールしてきました。

一方、北陸新幹線のデザイン監修は日本を代表する工業デザイナーである奥山清行氏によるもので、そのコンセプトは「大人の琴線に触れる『洗練さ』と心と体の『ゆとり・解放感』」です。このコンセプトは富山市が目指す「いつまでも暮らせる本物のまち」と共鳴し、新幹線開業によって富山の魅力が一層引き出されます。

森雅志(もり まさし)

富山市長

1952年8月13日生まれ。中央大学法学部卒。

1995年 4月、富山県議会議員に初当選。

2002年 1月に旧富山市長に、2005年 4月に新富山市長に初当選。以後、富山市政を担う。

「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」を基本政策に、人口減少時代にあっても魅力あるまちづくりを推進するとともに、若者たちが将来の暮らしに希望を持てるよう、20年後、30年後の世代にも評価される施策をぶれずに進めていくことに全力で取り組む。

好きな言葉は、「知行合一」(行動が伴わなければ、真に知っているとは言えないこと)。

趣味は、雑文を書くこと、登山、韓国語会話、イタリア語会話、サクソ演奏など。休日には乗馬やヨットを楽しむなど富山の豊かな自然を満喫して過ごす。

奥山 清行(おくやま きよゆき) Ken Kiyoyuki Okuyama

工業デザイナー / KEN OKUYAMA DESIGN 代表

1959年 山形市生まれ。

ゼネラルモーターズ社(米)チーフデザイナー、ボルシェ社(独)シニアデザイナー、ピニンファリーナ社(伊)デザインディレクター、アートセンターカレッジオブデザイン(米)工業デザイン学部長を歴任。フェラーリ エンツォ、マセラティクアトロポルテなどの自動車やドゥカティなどのオートバイ、鉄道、船舶、建築、ロボット、テーマパーク等数多くのデザインを手がける。2007年よりKEN OKUYAMA DESIGN 代表として、山形・東京・ロサンゼルスを拠点に、企業コンサルティング業務のほか、自身のブランドで自動車・インテリアプロダクト・眼鏡の開発から販売までを行う。2013年4月よりヤンマーホールディングス株式会社取締役。滋慶学園COMグループ名誉学校長、アートセンターカレッジオブデザイン客員教授、多摩美術大学客員教授、金沢美術工芸大学客員教授、山形大学工学部客員教授。『フェラーリと鉄瓶』(PHP出版社)、『伝統の逆襲』(祥伝社)、『人生を決めた15分 創造の1/10000』(武田ランダムハウスジャパン)、『100年の価値をデザインする』(PHP ビジネス新書)など著書や、講演活動も行う。

日時 2014年2月27日(木) 14時半～16時半(開場14時15分)

場所 WATERRAS COMMON 3F
『WATERRAS COMMON HALL』
東京都千代田区神田淡路町2丁目101番地
<http://www.waterrascommon.com/index.html>

■最寄駅

東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅徒歩約2分

東京メトロ丸ノ内線「淡路町」駅徒歩約2分

JR「御茶ノ水」駅徒歩約3分

参加費 無料

お問合せ

北陸新幹線が拓く富山の新時代開催
事務局
(株式会社ローカルファースト研究所内)

電話 03-5812-9688

FAX 03-5577-4038

電子メール toyama@local-first.jp



「北陸新幹線が拓く富山の新時代」申込 FAX: 03-5577-4038

お名前	電話番号
所属	
電子メール	

主催:北陸新幹線が拓く富山の新時代開催事務局

後援:東洋大学PPP研究センター